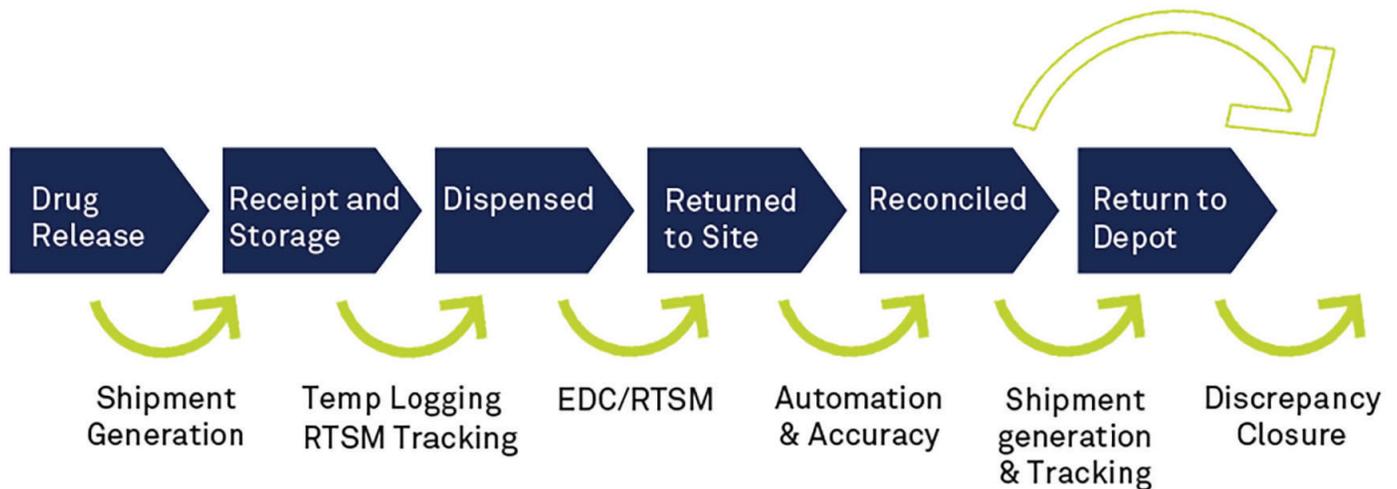


Rave EDCおよびRTSMによる供給管理

メディデータのアプローチは、データ・アグリゲーションの大半を自動化し、Rave EDCを利用して、治験実施施設が返却と照合に関するデータを入力する際の手順を簡略化します。そして、モニターは、プラットフォームにログインして、返却の配送を設定し、治験実施施設でのプロセスを完了させます。治験実施施設は、ローカル・プロセスにより許可されている場合、「施設での廃棄」を選択することができます。下記の図では、Rave EDCおよびRTSMを利用した供給管理プロセスについて説明します。



メディデータの優位性

完全に統合された電子的供給管理（eSA）の体験が得られるのは、Medidata Clinical Cloudだけです。eSAは事前検証がなされており、まさにプラグ・アンド・プレイであり、治験実施施設とモニターに対して迅速且つ簡単なトレーニングを提供します。治験薬（IP）のデータは、試験終了の要件に応じて報告を行うために、全て一つのシステムに格納されます。

供給管理の重要な要件や規則に関して、メディデータの優位性に敵うベンダーは存在しません：

- すぐに利用できるeSAにより、実装／受け入れテスト（UAT）のスケジュールを短縮
- EDCへのデータ入力を25%迅速化
- 一つのシステムで在庫の全体像を閲覧
- 返却の配送の設定、または施設での廃棄が可能
- データベースのロック／解析のための時間を節約